



CRÉDIT AGRICOLE S.A.

本書は、英語による Crédit Agricole SA 2014 年度第 2 四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2014 年 8 月 5 日 モンレージュ

2014 年度第 2 四半期及び上半期業績結果

堅調な 2014 年度第 2 四半期利益(特殊要因を除く)

クレディ・アグリコル・グループ:16 億 9,400 万ユーロ・クレディ・アグリコル S.A.:10 億 300 万ユーロ

- CET1 レシオの一層の強化
- 好調な事業の伸び
- リスク関連費用の持続的低減

BES の状況が業績に影響

クレディ・アグリコル・グループ*

2014 年 6 月 30 日現在のバーゼル 3 完全適用後 CET1 レシオ:12.3%

(2014 年 3 月末現在では 11.7%)

2014 年度第 2 四半期純利益グループ帰属分:7 億 500 万ユーロ

(2013 年度第 2 四半期は 13 億 8,500 万ユーロ)

2014 年度上半期純利益グループ帰属分:21 億 2,500 万ユーロ

(2013 年度上半期は 24 億 1,000 万ユーロ)

* クレディ・アグリコル S.A.と地域銀行の 100%。

クレディ・アグリコル S.A.

2014 年 6 月 30 日現在のバーゼル 3 完全適用後 CET1 レシオ:9.9%

(2014 年 3 月末現在では 9.0%)

2014 年度第 2 四半期の調整後純利益グループ帰属分:10 億 300 万ユーロ

特殊要因の影響**: -2 億 7,800 万ユーロ

BES の影響:-7 億 800 万ユーロ

2014 年度第 2 四半期純利益グループ帰属分:1,700 万ユーロ

2014 年度上半期純利益グループ帰属分:8 億 8,500 万ユーロ

(2013 年度上半期は 11 億 6,700 万ユーロ)

事業部門収益は前年同期比 2.1%増

営業費用は安定推移

リスク関連費用は前年同期比 19.6%減

** CVA、DVA、FVA、発行体スプレッド、及びローン・ヘッジ。

クレディ・アグリコル・グループ

2014 年度第 2 四半期のクレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は、7 億 500 万ユーロとなり、また、上半期では前年同期比 11.8%減の 21 億 2,500 万ユーロとなりました。

当期の業績は、かなりの金額について特殊要因の影響を受けました。それらの特殊要因を除いた調整後の業績は 16 億 9,400 万ユーロでした。この好調な業績は、精彩を欠く経済環境が続いたにもかかわらず、さまざまな部門や事業ラインにおける好調な成長に加えて、リスク関連費用の継続的な削減に由来するものです。そのため、2014 年度第 2 四半期の収益は前年同期比で 2.4%増加し、また、リスク関連費用は同じ期間に 23.1%減少しました。

ポルトガルの銀行 BES の状況によって、クレディ・アグリコル S.A.は同行に対する持分の価額を全額損失処理しました。この措置に加えて、7 月 30 日に発表された BES の四半期損失の会計処理の結果、BES に起因する持分法適用子会社からのマイナス寄与分は総額で 7 億 800 万ユーロとなりました。したがって、合計で-2 億 8,100 万ユーロの特殊会計要因(発行体スプレッドなど)を含めると、純利益グループ帰属分は、2013 年度第 2 四半期の 13 億 8,500 万ユーロに対して 7 億 500 万ユーロにとどまりました。

地域銀行は、2013 年度における収益と利益の好調な伸び(したがって高い比較基準)の後でも、不透明な経済情勢と不利な規制環境の影響を受けて低迷を続ける市場において、事業を引き続き拡大しました。

顧客預かり資産は、2014 年 6 月末現在で前年比 3.0%増の 5,940 億ユーロまで増加しました。これは、オン・バランスシート預金の 3,460 億ユーロ(前年比 2.8%増)を含んでいます。オフ・バランスシート顧客預かり資産は、生命保険残高の 4.6%増に牽引されて 3.5%増加しました。

ローン残高は、住宅ローンの 2.6%の伸びに牽引され、2014 年 6 月 30 日現在で前年比 1.0%増の 3,990 億ユーロに達しました。

地域銀行は、当期に 8 億 9,200 万ユーロ、上半期では 18 億 900 万ユーロの純利益を生みました(前年同期比でそれぞれ 5.3%、1.7%の減少)。

クレディ・アグリコル S.A.の会長 ジャン・マリ・サンデルは、「クレディ・アグリコル・グループは経済に対する重要な資金供給者であり、地域銀行と LCL によって総額でおよそ 4,890 億ユーロの融資が行われました。クレディ・アグリコル・グループは、フランス経済を回復させる上で重要な役割を果たしています」と述べました。

クレディ・アグリコル S.A.の CEO ジャン・ポール・シフレは、「第 2 四半期の業績は、第 1 四半期にみられた趨勢を裏付けるものです。BES の状況とその四半期決算に与える影響にもかかわらず、当グループは、本年 3 月に公表した中期計画の道筋を順調に進んでおり、事業の強みと財務の堅固さを十分活用するとともに、費用削減努力を継続しています」と付け加えました。

2014 年度第 2 四半期中に、当グループの財務構造は著しく強化されました。

流動性準備金は短期債務を十分カバーし(176%)、また当グループの LCR レシオは 110%を超えま

した。

2014 年度の総額 100 億ユーロのシニア債発行プログラムは、6 月末に完了しました。

ソルベンシーについては、クレディ・アグリコル・グループのバーゼル 3 完全適用後 CET1 レシオは、2014 年 3 月末から 60 ベーシス・ポイント上昇して 2014 年 6 月末現在で 12.3%に達しました。この力強い伸びは、当グループのビジネス・モデル(内部留保及び配当再投資)、株式において認識された含み益の増加、及び過去 3 年間に実施された行動計画の継続(事業の売却処分、リスク・ウェイト資産の削減)によって推進されました。

(完全適用後総資本に対して計算される)コングロマリット・レシオは、2014 年 6 月 30 日現在で 185%となりました。

クレディ・アグリコル・グループの 2014 年 6 月末現在における段階適用レバレッジ・レシオは、CRD4 方式で 4.1%、バーゼル委員会方式で 4.8%でした。

クレディ・アグリコル S.A.

2014 年度第 2 四半期及び上半期の財務諸表を検討するために、ジャン・マリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2014 年 8 月 4 日に開かれました。

クレディ・アグリコル S.A.の調整後純利益グループ帰属分は、2014 年度第 2 四半期には 10 億 300 万ユーロでした。ここから、ポルトガルの銀行 BES 関連の損失(含む簿価の全額処理) -7 億 800 万ユーロと、経常的な会計項目(資金調達評価調整(FVA)の初回適用を含む) -2 億 7,800 万ユーロの影響を含めると、調整後純利益グループ帰属分は、10 億 300 万ユーロから 1,700 万ユーロに低下しました。

本来の高水準の調整後純利益は、3 つの要因によって説明されます。すなわち特に資産管理・保険部門と法人営業及び投資銀行部門での良好な事業業績、コストの抑制、及びリスク関連費用の継続的な削減です。

精彩を欠く環境の中でも、リテール・バンキング事業は健全な伸びを達成しました。オン・バランスシート預金は、2014 年 6 月 30 日現在で前年比 2.3%増、また、ローン残高は同じ期間に 0.9%増となりました。

全ての資産管理・保険事業における管理資産は、前年同期比でほぼ 920 億ユーロ増加しました。2014 年度上半期だけでも、156 億ユーロの資金流入額(純額)を含め、増加額は 546 億ユーロとなりました。

法人営業及び投資銀行部門は、前四半期比 8.8%の収益の伸びを示しました¹。これは主に、クレジットや金利事業における力強い伸びと、いくつかの大型合併・買収案件への参加に牽引されたものです。

費用削減プログラムは、目に見える成果を達成しました。MUST プログラムの下での費用節減額は、2014 年度上半期に 6,400 万ユーロ、2012 年のプログラム開始からでは総額 4 億 1,500 万ユーロとなりました。2016 年末までに 6 億 5,000 万ユーロを削減することが全体の目標です。

リスク関連費用も、当期中に引き続き減少して前年度を 7 ベーシス・ポイント下回り、残高の 52 ベーシス・ポイントに達しました。この傾向は、フランスのリテール・バンキング事業で特に明白であり、リスク関連費用は地域銀行と LCL においてそれぞれ 22 ベーシス・ポイント、23 ベーシス・ポイントとなりました(2013 年度第 2 四半期は各々 29 ベーシス・ポイント)。国際リテール・バンキングのリスク関連費用は、131 ベーシス・ポイントでした。消費者金融のリスク関連費用は、引き続き低下しました(特に、イタリアの子会社アゴス・デュカト)。法人営業および投資銀行部門のファイナンス事業のリスク関連費用は、これまでの四半期を通じて穏当な水準で推移しています。

2014 年度上半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比 24.0%減の 8 億 8,500 万ユーロでした。

クレディ・アグリコルの財務面の堅固さは更に強化され、完全適用後 CET1 レシオは 2014 年 3 月末現在の 9.0%から 2014 年 6 月末現在では 9.9%へと上昇しました。(完全適用後総資本に対して計算される)コングロマリット・レシオは、2014 年 6 月 30 日現在で 242%でした。

¹ DVA running、Day One FVA、CVA/DVA 手法の変更、及びローン・ヘッジに関して修正再表示。

社会的・環境的責任

クレディ・アグリコルは、その全ての営業地域において、エネルギー取引のファイナンスで持続的且つ積極的な役割を果たすことを可能にする利点を数多く備えています。

クレディ・アグリコルは、2013 年 12 月 31 日現在で再生可能エネルギー関連のファイナンスと 2,100MW を超える設備容量に対して 20 億ユーロを超える資金を供給することで、フランスの太陽光発電容量の約 30%、風力発電容量の 25%、及びメタンバーナーの 70%に融資を行っています。更に、グリーンボンドと「社会的に責任ある投資」(SRI)でも市場のリーダーとなっているクレディ・アグリコルは、先の 6 月 23 日に開かれた「エネルギー転換に関する銀行業務・金融会議」への参加機会を利用して、各種の提案(グリーンボンドを奨励するための規制面及び税制面の奨励措置と銀行による無利子のエコ住宅ローン提供を促進するためのルール改革を含む)を行いました。

クレディ・アグリコルがエネルギー効率をその重点分野の 1 つにした 2010 年以降、エネルギー転換に関連した課題や論点は、クレディ・アグリコルにとってますます重要性を増しています。これは、再生可能エネルギー・ファイナンス、エネルギー効率、持続可能なモビリティ、及び生物多様性保護において、コミットメントを強化し革新的な解決策を提供するという当グループの目標を示しています。

決算スケジュール

2014 年 11 月 6 日	2014 年度第 3 四半期の決算発表
2015 年 2 月 18 日	2014 年度第 4 四半期及び通年の決算発表
2015 年 5 月 6 日	2015 年度第 1 四半期の決算発表
2015 年 5 月 20 日	年次株主総会
2015 年 8 月 4 日	2015 年度第 2 四半期及び上半期の決算発表
2015 年 11 月 5 日	2015 年度第 3 四半期の決算発表

クレディ・アグリコル S.A.連結決算

(in millions of euros)	Q2-14	Change Q2/Q2*	H1-14	Change H1/H1*
Revenues	3,934	(6.1%)	7,946	+1.2%
Operating expenses	(2,772)	+ 0.3%	(5,486)	(0.5%)
Gross operating income	1,162	(18.5%)	2,460	+5.3%
Cost of risk	(534)	(19.6%)	(1,124)	(19.9%)
Operating income	628	(100.0%)	1,336	(24.0%)
Share of net income of equity-accounted entities	(387)	nm	89	(86.1%)
Net income on other assets	3	x2.6	8	(40.0%)
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Income before tax	244	(76.4%)	1,433	(9.6%)
Tax	(132)	(45.7%)	(354)	+ 38.4%
Net income from discontinued or held for sale operations	7	nm	6	(57.4%)
Net income	119	(84.9%)	1,085	(19.2%)
Non-controlling interests	102	+10.6%	200	+12.1%
Net income Group share	17	(97.5%)	885	(24.0%)

* 比例法に基づいて 2013 年に連結対象となった持分法適用子会社及び IFRS 第 5 号に従った Crelan の再分類について修正再表示。

収益は、2014 年度第 2 四半期が 39 億 3,400 万ユーロ、上半期が 79 億 4,600 万ユーロとなりました。これらの数字は、2014 年度第 2 四半期における総額-4 億 3,100 万ユーロの特殊要因(2013 年度第 2 四半期は-3,200 万ユーロ)を含んでいます。これらの特殊要因は、クレディ・アグリコル CIB の発行体スプレッドとコーポレート・センターで計上されたユニット・リンク型保険契約に関連するスプレッドのほか、DVA running、day 1 FVA(2014 年度第 2 四半期の初回適用)、及び法人営業及び投資銀行部門におけるローン・ヘッジです。これらの特殊要因を除くと、2014 年度第 2 四半期の収益は前年同期比で 4.9%増加しました。

営業費用は、LCL の事業計画における最初の支出を含めて 27 億 7,200 万ユーロ(+0.3%)と安定的に推移しました(+600 万ユーロ)。MUST プログラムの下での費用節減額は、2014 年度第 2 四半期に 2,800 万ユーロとなり、2012 年のプログラム開始から合計で 4 億 1,500 万ユーロに達しました。全体目標は、2016 年までに 6 億 5,000 万ユーロの達成です。全体では、2014 年度第 2 四半期のコスト比率は 70.5%でした。

リスク関連費用は、穏当なレベルで推移し、主に消費者金融子会社のアゴス・デュカトにおける継続的な改善によって 2013 年度第 2 四半期比で 19.6%減の 5 億 3,400 万ユーロとなりました。アゴス・デュカトによる引当総額は、2013 年度第 2 四半期の 2 億 2,400 万ユーロ、2014 年度第 1 四半期の 1 億 6,300 万ユーロに対して、2014 年度第 2 四半期は 1 億 4,900 万ユーロでした。リスク関連費用も、カリパルマを除く他の全ての子会社で減少し、過去の一連の四半期の平均に近い総額 1 億 300 万ユーロとなりました。

リスク関連費用は、2013 年度第 2 四半期の 59 ベーシス・ポイント、2014 年度第 1 四半期の 60 ベーシス・ポイントに対して、通年で残高の 52 ベーシス・ポイントとなりました。リテール・バンキング部門では、傾向は LCL における期待に沿ったものでした(2013 年度第 2 四半期の 29 ベーシス・ポイントに対して 23 ベーシス・ポイント)。カリパルマでは、リスク関連費用は引き続き高い水準にとどまり、2014 年度第 2 四半期は前年同期比で 4.4%増となりました。法人営業及び投資銀行部門では、リスク関連費用は引き続き低水準にあります。ファイナンス事業のリスク関連費用は、残高の 16 ベーシス・ポイントとなりました。

不良債権残高は、顧客及び銀行間の総ローン残高の 4.0%に相当する 159 億ユーロであり、2013 年度第 2 四半期比で安定して推移しました(ファイナンス・リース、クレディ・アグリコル内部取引、及び未収利息を除く)¹。特定引当金によってカバーされた不良債権の比率は、2013 年 6 月 30 日現在の 57.6%に対して 54.1%でした²。2014 年度第 2 四半期における不良債権引当率は、一般引当金を含めると 71.1%となりました。

持分法適用会社の 2014 年度第 2 四半期の純利益帰属分は、-3 億 8,700 万ユーロでした。これは、BES からのマイナス寄与分の-7 億 800 万ユーロ(純利益帰属分の-5 億 200 万ユーロと出資持分の残存価額の減損における-2 億 600 万ユーロ)を含んでいます。地域銀行からの寄与分は 2 億 3,500 万ユーロとなり、うち利益として計上された 2 億 3,200 万ユーロ(前年同期比で 1.2%減)を含んでいます。引当金の変動は、2013 年度第 2 四半期の 2,100 万ユーロに対して 2014 年度第 2 四半期は 300 万ユーロでした。これは当期における地域銀行株主総会の開催数が前年度より少なかったことによるものです。その結果、地域銀行の 2014 年度第 2 四半期の寄与分は、前年同期比 8.0%減の 2 億 3,500 万ユーロでした。

税引前利益は、前年同期の 10 億 3,200 万ユーロに対して 2 億 4,400 万ユーロとなりました。

全体では、クレディ・アグリコル S.A.の 2014 年度第 2 四半期の純利益グループ帰属分は、BES からの-7 億 800 万ユーロのマイナス寄与分の控除後で 1,700 万ユーロとなりました。発行体スプレッド、DVA running、FVA の初回適用、ローン・ヘッジ、及び BES のマイナス寄与分について修正再表示すると、基礎純利益グループ帰属分は、同じ項目に関して修正再表示した 2013 年度第 2 四半期の 6 億 8,200 万ユーロに対して、10 億 300 万ユーロとなりました²。

ソルベンシー

完全適用後 CET1 レシオは、2014 年 3 月 31 日現在の 9.0%に対して同年 6 月 30 日現在で 9.9%となりました。この期間における 90 ベーシス・ポイントの改善は主に、6 月末現在で CET1 資本金が 17 億ユーロ増加したことと、リスク・ウェイト資産が 77 億ユーロ減少して 2,913 億ユーロとなったことによるものです。

CET1 資本金の増加は主に、中期計画で用いられた金利シナリオとは対照的に低金利の持続による

¹ IFRS 第 5 号の再分類に関する試算値: Crelan、ニューエッジ、CA ブルガリア及び CACF の北欧子会社、CAL ヘラス及び CA イモビリエ(2013 年 6 月 30 日)、Crelan 及び CAL ヘラス(2013 年 12 月 31 日)。

² 発行体スプレッド、DVA running 及びローン・ヘッジを除く。

含み益+6 億ユーロ(+20 ベーシス・ポイント)の急増、BES を除く純利益の影響(+26 ベーシス・ポイント)、及び株主の 85%以上に対する株式配当の支払い(当グループ外の持分に関して+9 ベーシス・ポイント)に由来するものです。リスク・ウェイト資産の減少は主に、中期計画で予定された子会社の売却処分(ニューエッジ、BNI マダガスカル及び CA ブルガリアの範囲からの離脱)に由来するものであり、これによりリスク・ウェイト資産が 58 億ユーロ減少しました。クレディ・アグリコルのレシオに対する BES の影響は皆無でした。これは、純利益に対する BES の影響が、自己資本からのクレディ・アグリコル持分の価額控除の減少によって相殺されたためです。

更に、2014 年 4 月に総額 16 億ユーロの AT1 発行が行われました。

流動性

ヘアーカット後の流動性準備金は、総短期債務の 176%をカバーしました(2013 年度第 2 四半期は 160%)。剰余金は、2014 年 6 月 30 日現在で 2,320 億ユーロとなりました。当グループの LCR レシオは、2014 年 6 月 30 日現在で 110%を上回りました。

2014 年度上半期に、クレディ・アグリコル・グループの主な発行体は、市場及び支店ネットワークを通じてシニア債によって 215 億ユーロを調達しました。クレディ・アグリコル S.A.は、第 2 四半期の 55 億ユーロを含めると上半期で 100 億ユーロを調達し、年間プログラムを 100%完了しました。クレディ・アグリコル S.A.は更に、2014 年 1 月と 4 月に 2 件の追加ティア 1 発行を完了しました(1 件は 17 億 5,000 万米ドル、残りの 1 件は 10 億ユーロ及び 5 億ポンド)。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q2-14	Change Q2/Q2	H1-14	Change H1/H1
Net income accounted for at equity (at ~ 25%)	232	(1.2%)	461	+2.7%
Change in share of reserves	3	(83.4%)	152	+1.7%
Share of net income of equity-accounted entities	235	(8.0%)	613	+2.4%

低迷を続ける市場、不透明な経済情勢、不利な規制環境の中で、地域銀行は事業を引き続き拡大しました。

顧客預かり資産は、2014 年 6 月末現在で前年比 3.1%増の 5,940 億ユーロを記録しました。これは、オン・バランスシート預金の 3,460 億ユーロ(前年比 2.8%増)を含んでいます。2013 年 6 月末時点と比べたオン・バランスシート預金の伸びは、非課税貯蓄性預金(4.2%増)と要求払預金(4.1%増)に牽引されたものです。住宅購入貯蓄プランは、前年比で 3.6%増加した一方、定期預金口座は 1.5%減少しました。オフ・バランスシート顧客預かり預金は、前年比で 3.5%増加しました。これは、生命保険残高(4.6%)と有価証券(3.7%)の伸びに支えられたものです。

ローン残高は 2014 年 6 月 30 日現在、マーケットの多様な傾向を反映して、前年比で 1.0%増の 3,990 億ユーロとなりました。住宅ローンは、前年比で 2.6%増加した一方で、消費者信用と中小企業及びスモール・ビジネス向けのローンは、過去 12 ヶ月間にそれぞれ 4.8%、1.7%減少しました。

預貸比率¹は 116%と、2013 年 12 月末現在と比べて安定して推移しました。

地域銀行の収益(グループ内取引の修正再表示後)は、2014 年度第 2 四半期に 34 億ユーロとなりました。これは、ローン買戻しと早期返済によるプラス影響、預金と資金調達のコスト低下、及び全セグメントでの手数料収入の増加の恩恵を受けた 2013 年度第 2 四半期の高いベースラインと比べて 3.1%の減少です。比較すると 2014 年度第 2 四半期は、低金利の持続と平坦な利回り曲線の影響を受け、それが仲介マージンに対する圧力となりました。更に手数料収入も、不利な規制環境の影響を受けて 2014 年度第 2 四半期は前年同期比で 4.3%減となりました(これは主に、口座管理・支払手数料の 12.7%減少によるものです)。保険手数料は、好調であった第 1 四半期に続く第 2 四半期は減少しました。そのため、上半期全体では保険手数料は 0.6%の微増となりました。

営業費用は、2013 年度第 2 四半期と比べて 2.1%増加しました。

2014 年度第 2 四半期のリスク関連費用は、ローン残高の 22 ベーシス・ポイントへと大幅に縮小しました(2013 年 6 月末は 29 ベーシス・ポイント、2014 年度第 1 四半期は 31 ベーシス・ポイント)。当期のリスク関連費用は、2013 年度第 2 四半期比で 32.1%減の 1 億 9,900 万ユーロでした。不良債権に

¹ 2014 年 3 月から方式変更。2013 年 12 月の試算値(EIB/CDC の資金調達と顧客関連資金に分類されるユニット・リンク型契約に含まれる CAsa 債、及び特殊要因を除いた顧客ローンを含む)。

対する合計引当金の引当率は、2013 年 6 月末現在の 105.9%に対して 106.1%でした。不良債権比率は、ローン残高全体の 2.5%と安定していました。

2014 年度第 2 四半期の営業利益は、前年同期の 13 億 7,700 万ユーロに対して 13 億 2,100 万ユーロでした。

引当金の帰属分の変化は、2014 年度第 2 四半期に 300 万ユーロとなりました(第 1 四半期は 1 億 4,900 万ユーロ、2013 年度第 2 四半期は 2,100 万ユーロ)。したがって、上半期全体では、2013 年度上半期比で 1.7%増加しました。全体では、クレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分に対する地域銀行の 2014 年度第 2 四半期の寄与分は、前年同期の 2 億 5,600 万ユーロに対して 2 億 3,500 万ユーロとなりました。2014 年度上半期の寄与分は、前年同期比で 2.4%増の 6 億 1,300 万ユーロでした。

1.2. LCL

(in millions of euros)	Q2-14	Change Q2/Q2	H1-14	Change H1/H1
Revenues	935	(2.6%)	1,891	(2.2%)
Operating expenses	(640)	+1.3%	(1,259)	+1.1%
Gross operating income	295	(10.0%)	632	(8.4%)
Cost of risk	(55)	(19.7%)	(125)	(20.6%)
Operating income	240	(7.5%)	507	(4.7%)
Net income on other assets	-	nm	-	nm
Income before tax	240	(7.5%)	507	(5.7%)
Tax	(87)	(3.5%)	(184)	(1.7%)
Net income	153	(9.7%)	323	(7.9%)
Non-controlling interests	8	(8.4%)	16	(7.5%)
Net income Group share	145	(9.7%)	307	(7.9%)

LCL は、個人によるプロジェクトの資金調達を支援することで引き続き経済を支えています。2014 年度第 2 四半期は、預金の増加と貸付の堅実な伸びによって、これまでの四半期に観察された趨勢が更に続きました。

2014 年 6 月末現在のローン残高は、前年比 0.9%増の 898 億ユーロでした。この伸びは、前年比 3.0%増の 570 億ユーロを記録した住宅ローンに牽引されたものです。

顧客預かり資産は、事業の力強い趨勢に牽引されて、2014 年 6 月末現在で前年比 2.7%増の 1,651 億ユーロに達しました。オフ・バランスシートの顧客預かり資産は、主に生命保険からの資金流入(5.4%増)により、前年比で 3.6%増加しました。オン・バランスシート預金は、主に要求払預金の伸び(8.3%増)によって 1.8%増加しました。

預貸比率は、2014 年 3 月末現在から安定して推移し、2014 年 6 月末現在で 110%となりました。

2014 年度第 2 四半期の収益は、前年同期比 2.6%減の 9,350 億ユーロでした。これは、2013 年度第 2 四半期の高いベースからの純金利マージンの 4.1%減少によって説明することができ、その主因は、2013 年の第 2 四半期と第 3 四半期がピークであったローン買戻しと早期返済の影響です。但し、手数料収入は、銀行法の新たな規定の影響を受けながらも安定して推移しました。2014 年度第 2 四半期における有価証券手数料の増加(前年同期比で+4.1%)と保険手数料収入の増加(前年同期比で+3.2%)は、口座管理・支払手数料の減少を相殺しました。

営業費用は、引き続き安定して推移し、2014 年度第 2 四半期は中期計画関連支出の控除前で前年同期比 0.4%増でした。この事業計画関連の支出は、2014 年度第 1 四半期の 500 万ユーロに対して第 2 四半期は 600 万ユーロでした。当期のコスト比率は、前年同期と比べて 2.7 ポイント上昇して 68.5%となりました。

リスク関連費用は、全ての市場で急速に改善し、2014 年度第 2 四半期は前年同期比で 19.7%減少しました。このため、2014 年 6 月末現在の不良債権比率は 2.4%と、2013 年 6 月末と比べて安定して推移しました。2014 年 6 月末現在の不良債権引当率(一般引当金を含む)は、2013 年 6 月末の 74.5%に対して 74.0%でした。残高に対するリスク関連費用は、2013 年度第 2 四半期の 29 ベーシス・ポイントに対して 2014 年度第 2 四半期は 23 ベーシス・ポイントでした。

全体では、純利益グループ帰属分は、前年同期比で 9.7%減の 1 億 4,500 万ユーロでした。2014 年上半期の純利益グループ帰属分は、3 億 700 万ユーロとなりました。

2. 国際リテール・バンキング

当部門の純利益グループ帰属分は、2013 年度第 2 四半期の 2,500 万ユーロに対して 2014 年度第 2 四半期は-6 億 200 万ユーロでした。これは、特に持分法適用子会社の純利益帰属分に対して-7 億 800 万ユーロ(持分法適用子会社の純利益帰属分の-5 億 200 万ユーロと BES への出資持分の残存価額減損の-2 億 600 万ユーロ)のマイナス影響を及ぼした BES における状況の帰結を含んでいます。純利益グループ帰属分は、2013 年度上半期の 5,300 万ユーロに対して 2014 年度上半期は-5 億 8,400 万ユーロでした。

(in millions of euros)	Q2-14	Change Q2/Q2	H1-14	Change H1/H1
Revenues	668	+9.4%	1,360	+13.0%
Operating expenses	(362)	(3.6%)	(730)	(3.9%)
Gross operating income	306	+30.1%	630	+41.9%
Cost of risk	(142)	+19.1%	(400)	+26.9%
Operating income	164	+41.5%	230	+78.6%
Share of net income of equity-accounted entities	(707)	x16.2	(719)	x17.2
Net income on other assets	(2)	nm	(2)	nm
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Income before tax	(545)	nm	(491)	nm
Tax	(47)	+74.7%	(70)	x2.5
Net income from discontinued or held for sale operations	14	x7.6	14	+36.2%
Net income	(578)	nm	(547)	nm
Non-controlling interests	24	(2.4%)	37	+36.3%
Net income Group share	(602)	nm	(584)	nm

クレディ・アグリコル S.A.の業績に対するカリパルマの寄与分

(in millions of euros)	Q2-14	Change Q2/Q2	H1-14 ¹	Change H1 ¹ /H1 ²
Revenues	416	+5.8%	809	+3.7%
Operating expenses	(232)	(4.5%)	(461)	(5.2%)
Cost of risk	(103)	+4.4%	(210)	+3.4%
Net income	57	+33.4%	90	+12.4%
Net income Group share	41	+34.3%	65	+9.8%

イタリアでは、カリパルマが引き続き支店ネットワークの改革を進め、前四半期比で業績を伸ばしました。

¹ クレディ・アグリコル S.A.の財務諸表の締め切り後にカリパルマがその国内連結財務諸表(2013 年 12 月 31 日現在)で計上した項目を除く(すなわち、収益の+8,000 万ユーロ(このうち、イタリア中央銀行による株式再評価が+9,200 万ユーロ)、リスク関連費用の-1 億 900 万ユーロ、及びこれらの修正再表示に関連する納税額への影響)。

² イタリア中央銀行によって要求され、コーポレート・センター(2012 年度第 4 四半期)及びカリパルマの寄与分(2013 年度第 1 四半期)に計上された追加引当金(3,900 万ユーロ)の 2012 年度第 4 四半期における修正再表示後。

た。2014 年 6 月 30 日現在のローン残高は、前年同期比 0.7%増の 333 億ユーロでした(住宅ローンの 4.7%の伸びを含む)。オン・バランスシート預金は、総額で 357 億ユーロでした。したがって、預貸比率(特定引当金の控除後)は 89%となりました。カリパルパのオフ・バランスシート顧客預かり資産は、2013 年 6 月末現在の 502 億ユーロに対して 2014 年 6 月末現在では 541 億ユーロとなりました。生命保険と投資信託は、前四半期と同様に堅調であり、2013 年 6 月末比で 15.3%の伸びを記録しました。

2014 年度第 2 四半期の収益は、前年同期比で 5.8%増加しました。これは主に、当グループの他のイタリア子会社との間での過剰流動性の預金及び投資の平均コスト低下に関連するマージンの改善によるものです。収益はまた、オフ・バランスシート資金流入に支えられた手数料増加も寄与しました。

2014 年度第 2 四半期の営業費用は、前年同期比で 4.5%減少しました。これは、2013 年度第 2 四半期比での雇用者数の 2.3%減と費用最適化努力の継続によるものです。2014 年度第 2 四半期のコスト比率は 55.7%でした。

リスク関連費用は、2013 年度第 2 四半期比で 4.4%増の 1 億 300 万ユーロでした。合計残高に対する不良債権比率は 11.9%、引当率(一般引当金を含む)は 44.9%でした。

全体では、カリパルマの純利益グループ帰属分は、2013 年度第 2 四半期の 3,100 万ユーロに対して 2014 年度第 2 四半期は 4,100 万ユーロとなりました。

当グループの他の海外子会社は、2014 年 6 月 30 日現在のオン・バランスシート預金額が 105 億ユーロ、ローン総額が 98 億ユーロとなり、預金がローンを超過しました。他の主な海外子会社に関する 2014 年度第 2 四半期の純利益グループ帰属分は、ポーランドの子会社が 1,500 万ユーロ、Crédit du Maroc が 900 万ユーロ、クレディ・アグリコル・エジプトが 800 万ユーロ、ウクライナの子会社が 700 万ユーロとなりました。

3. 資産管理と保険

当部門には、資産運用、保険、プライベート・バンキング、及び資産運用サービスが含まれます。

2014 年 6 月 30 日現在の資産運用額は、2013 年 12 月 31 日現在から 546 億ユーロ増加して 1 兆 1,989 億ユーロとなりました。これは、持続する事業展開及びこの期間の好ましいマーケット効果に牽引されたものです。マーケットと為替の効果による 390 億ユーロを除くと、増加額は 156 億ユーロとなり、このうちの 126 億ユーロが資産運用、36 億ユーロが貯蓄/退職保険です。

2014 年度第 2 四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比 6.6%減の 3 億 8,400 万ユーロ、上半期では 7 億 6,100 万ユーロとなり、このうちの 91%は資産運用及び貯蓄/退職保険からのものです。

(in millions of euros)	Q2-14	Change Q2/Q2	H1-14	Change H1/H1
Revenues	1,298	+1.7%	2,554	+0.1%
Operating expenses	(649)	+3.3%	(1,271)	+2.8%
Gross operating income	649	+0.1%	1,283	(2.4%)
Cost of risk	(40)	x14.7	(45)	x13.5
Operating income	609	(5.6%)	1,238	(5.6%)
Equity affiliates	4	(26.7%)	8	(26.7%)
Net income on other assets	6	nm	6	nm
Income before tax	619	(4.8%)	1,252	(5.3%)
Tax	(202)	+1.9%	(422)	(1.0%)
Net income	417	(7.8%)	830	(7.3%)
Non-controlling interests	33	(19.1%)	69	(15.4%)
Net income Group share	384	(6.6%)	761	(6.5%)

資産運用部門では、アムンディの 2014 年 6 月末現在の資産運用額は、2013 年 12 月末から 5.7%増の 8,214 億ユーロとなりました。この期間の資金流入額(純額)は合計で 126 億ユーロでした。長期資産は、流入資金のうち 177 億ユーロを占めました(アクティブ投資とパッシブ投資の双方)。資金流入は、機関投資家(+69 億ユーロ)、グループ外の販売会社(+43 億ユーロ)、及び海外の支店ネットワーク(+19 億ユーロ)を含む全ての顧客セグメントによって牽引されたものです。フランスの支店ネットワークでは、資金流出額(純額)は-3 億ユーロに抑えられました(マネー・マーケット・ファンドを除く)。マーケット及び為替の効果は、この期間に 317 億ユーロとなりました。上半期には、海外市場は資金流入額のうちの 81 億ユーロを占め、全ての地理的地域からプラスの寄与がありました。

業績は、この好調な伸びと当年度初頭からの金融市場の好ましい動向を反映しています。アムンディの営業総利益は、上半期及び第 2 四半期について前年同期比でそれぞれ 4.6%、12.1%の伸びを記録しました。この好調な成績は、第 2 四半期における高いパフォーマンス・フィーと適切なコスト管理(上半期のコスト比率を 54.8%に維持)によって牽引された収益の伸びによるものです。新規子会社¹が発生させた費用を除くと、営業費用は前年同期比で第 2 四半期が 2.3%増、上半期が 1.2%増となりました。

¹ 米国(スミス・ブリーデン)、ポーランド、オランダ。

た。全体では、フランスの税率が 38%に引き上げられたことによる悪影響を反映させた後のアムンディの純利益グループ帰属分は、当グループの持分が 80%に増加したことで後押しされ、第 2 四半期が 9,200 万ユーロ、上半期が 1 億 6,700 万ユーロとなりました。

資産運用サービス部門では、CACEIS がカストディー資産の継続的な伸びを達成し、1 年間で 7.8%増加して 2014 年 6 月末現在で 2 兆 3,520 億ユーロに達しました。CACEIS はまた、CNP Assurances サービス契約(金額は 2,800 億ユーロ)の 5 年更新を発表しました。管理資産も、この期間に 5.4%増の 1 兆 3,320 億ユーロに達しました。

当部門の業績は、金利マージンの縮小(低利回り HQLA 証券の比率拡大とスプレッドの縮小)により、2013 年度第 2 四半期比で低下しました。純利益グループ帰属分は、2014 年度第 2 四半期が前年同期比 47.9%減の 1,900 万ユーロ、上半期が 3,800 万ユーロとなりました。

プライベート・バンキングは、運用資産額が上半期に 2.5%増加して 2014 年 6 月 30 日現在で 1,355 億ユーロに達しました。これは主に、2014 年度上半期における 6 億ユーロの資産流出(純額)を補って余りあるマーケットのプラス影響によるものです。

フランスでは、運用資産額は上半期に 2.3%増加して 632 億ユーロに達する一方、海外市場では 2.6%増の 723 億ユーロを記録しました。

純利益グループ帰属分は、法務引当金によるマイナス影響を受け、第 2 四半期は 86.2%減の 500 万ユーロとなりました。2014 年度上半期の純利益グループ帰属分は 2,800 万ユーロでした。

保険部門では、2014 年度第 2 四半期の保険料収入は前年同期比で 18.4%増の 71 億ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q2-14	Change Q2/Q2	H1-14	Change H1/H1
Revenues	544	+5.4%	1,104	+4.4%
Operating expenses	(156)	+7.3%	(303)	+5.3%
Gross operating income	388	+4.7%	801	+4.0%
Cost of risk	-	nm	-	nm
Net income on other assets	-	nm	-	nm
Tax	(119)	+8.1%	(271)	+6.5%
Net income	269	+3.1%	530	+2.8%
Net income Group share	268	+3.0%	528	+2.7%

貯蓄/退職保険セグメントでは、当グループは、優れた成績を達成し 2014 年度第 2 四半期の保険料収入は 57 億ユーロとなりました。前年同期と比べたフランスでの保険料収入は、2014 年度第 2 四半期が 14.0%増、上半期が 3.5%増となり、それに対して市場は同じ期間に減少しました(FFSA)。海外での保険料収入は、2014 年度第 2 四半期に前年同期比で 51.5%増加し(特にイタリアでは+60.7%の力強い実績)、市場の実績を大幅に上回りました(IAMA によれば 5 月末現在で+25.0%)。

運用資産は、前年比で 5.6%増加して 2014 年 6 月末現在で 2,420 億ユーロに達しました。ユーロの

ファンドは、前年比 4.4%増の 1,965 億ユーロに達する一方、ユニット・リンク・ファンドは前年比 11.1%増の 455 億ユーロとなり、全体の 18.8%(1 年間で 0.9%増)を占めました。

損害保険/健康保険/団体信用保険セグメントでは、2014 年度第 2 四半期の保険料収入は前年同期比 4.5%増の 8 億 6,400 万ユーロとなりました。損害保険/健康保険の保険料収入は、当期に前年同期比で 6.5%の伸びを記録し、一方、団体信用保険は住宅ローン保険の好調な成績に牽引されて 2.6%の伸びを記録しました。

貯蓄/退職保険及び損害保険における当年度初めからの資金流入額(純額)は、フランス国内の 26 億ユーロを含めて総額 43 億ユーロとなりました。

損害保険では、事業展開は力強さを維持し、2014 年度第 2 四半期の保険料収入は 5 億 4,300 万ユーロでした。当グループの事業の大部分を占めるフランスでは、第 2 四半期の保険料収入は前年同期比で 5.6%増加しました。フランスにおけるコンバインドレシオ¹(再保険後)は、2014 年上半期の気象事象にもかかわらず 95.9%で十分に抑制されました。

保険部門の純利益グループ帰属分は、システミック・リスク税²及び法人所得税率の 1.9 ポイント引き上げ(38%)にもかかわらず、2014 年度第 2 四半期は前年同期比 3.0%増の 2 億 6,800 万ユーロを記録しました。

¹ 保険料収入に対する(請求額 + 営業費用)の比率。パシフィカ。

² CAA の所有権に関連するクレディ・アグリコル S.A.の最低規制資本要件に対するシステミック・リスク税(2014 年度上半期に関して同年第 2 四半期に 600 万ユーロ)。

4. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q2-14	Change Q2/Q2	H1-14	Change H1/H1
Revenues	678	(6.9%)	1,364	(6.3%)
Operating expenses	(329)	(5.1%)	(664)	(4.4%)
Gross operating income	349	(8.5%)	700	(8.0%)
Cost of risk	(261)	(29.6%)	(543)	(30.3%)
Operating income	88	x8.5	157	nm
Share of net income of equity-accounted entities	37	+8.9%	68	+10.0%
Income before tax	125	x2.8	225	x5.1
Tax	(22)	(6.8%)	(48)	+68.2%
Net income from discontinued or held for sale operations	(15)	nm	(9)	nm
Net income	88	x3.2	168	x6.2
Non-controlling interests	7	nm	10	nm
Net income Group share	81	+72.2%	158	x2.4

専門金融サービス部門は、2014 年度第 2 四半期にその業績の伸びを強固なものにし、純利益グループ帰属分は、2013 年度第 1 四半期の 4,900 万ユーロに対して 8,100 万ユーロとなりました。持続する厳しい規制環境の下で、消費者金融とリースの双方で残高は前四半期比で安定する一方、買取売掛債権は急激に増加しました。

残高の減少に伴い、当部門の収益は前年同期比で 6.9%減の 6 億 7,800 万ユーロとなりました。営業費用は、CACF が講じた回収費用最適化措置を反映して 1 年間で 5.1%減少しました。CAL&F に関する費用は安定を保ち、2014 年度第 2 四半期は前年同期比で 0.3%増にとどまりました。最後に、リスク関連費用は CACF と CAL&F の双方とも引き続き低下しました。

当期の**消費者金融**残高は、北欧子会社に関連する残高の事実上 4,000 億ユーロの引上げ（これは前四半期に売却された）にもかかわらず、オリジネーションの回復（前年同期比 7.0%増）により 690 億ユーロで安定しました。残高の地理的な内訳は前四半期と同様であり、それぞれフランスが 38%、イタリアが 34%、他の諸国が 28%となりました。自動車ローン・ジョイントベンチャーへの IFRS 第 11 号の適用と管理消費者信用残高から統合消費者信用残高への自動車ローン提携リース・ファイナンス残高の再分類についての修正再表示により、残高の内訳は、統合消費者信用残高が 540 億ユーロ、クレディ・アグリコル・グループの消費者信用残高が 123 億ユーロ、管理消費者信用残高が 27 億ユーロとなっています。

一方、戦略計画で設定した目標に従って、CACF は、引き続き自己調達率を強化し、上半期には 4.7 ポイント増の 57.7%に達しました。良好な業績は、CACF の（ヨーロッパパスポートに基づく）ドイツでの預金事業の確固たる成功に由来するものであり、上半期には 5 億ユーロを超える資金流入がありました。FGAC とアゴス・デュカトは、上半期に証券化事業と EMTN 発行プログラムを継続し、これは 20 億ユーロとなりました。

2014 年度第 2 四半期の CACF の収益は、前年同期比 9.7%減、前四半期比 2.5%減となる 5 億

3,700 万ユーロでした。これは、年間を通じた残高の減少とバーゼル 3 流動性比率の実施に先立つ自己の流動性剰余金強化の相対費用によるものでした。当期の営業費用は、CACF での営業効率改善計画と回収費用の最適化施策を反映して 6.6%減となりました。2014 年度第 2 四半期のリスク関連費用は、アゴス・デュカトのほか特にフランスの CACF グループの他の子会社 (14.7%減) を主因として、前年同期比 26.9%減の 2 億 4,900 万ユーロとなりました。したがって、リスク関連費用は、残高の 256 ベーシス・ポイントを占め、これは前四半期比で 37¹ベーシス・ポイントの改善となりました。当期のアゴス・デュカトのリスク関連費用は、前年同期比 33.2%減の 1 億 4,900 万ユーロとなりました。これは現在、CACF 全体の 256 ベーシス・ポイントのうち 93 ベーシス・ポイントを占めています。アゴス・デュカトの当期の不良債権比率は、前四半期の 11.9%に対して 12.6%となり、その不良債権引当率は、一時引当金を含めて 99.8%と非常に高い水準を維持しました。アゴス・デュカトのこうした継続的なリスク改善の結果、同社は収益獲得能力を維持することができました。

全体では、CACF の純利益グループ帰属分は、前年同期比 76.4%増の 5,700 万ユーロを記録しました。

リース・ファイナンス及びファクタリング部門では、事業及び地理的地域によって残高傾向にばらつきがありました。リース・ファイナンスの下降傾向が継続した結果、残高は前年同期比 2.4%減の 158 億ユーロとなりました。対照的に、海外のリース・ファイナンス残高は、当期中に 4.3%増となる (40 億ユーロ) に達し、また、買取売掛債権は、7.6%増となるフランスでの 104 億ユーロを含めて 6 月末現在で 7.0%増の 159 億ユーロを記録しました。

当期の CAL&F の収益は、ファクタリング事業の伸びとリース・ファイナンス子会社からの撤退継続による効果から、前年同期比 5.9%増の 1 億 4,100 万ユーロとなりました。営業費用は、当期を通じて安定しており、リスク関連費用は前年同期比で 60.0%減となりました。CAL&F は、既に流出という形で管理されていたギリシャのリース・ファイナンス子会社からの撤退継続に伴い、非継続事業に関して当期中に 1,500 万ユーロの損失が発生しました。全体では、2014 年度第 2 四半期の CAL&F の純利益グループ帰属分は、前年同期比 62.0%増の 2,400 万ユーロとなりました。ギリシャのリース・ファイナンス子会社の損失を除くと、純利益グループ帰属分は 3,900 万ユーロとなりました。

¹ 自動車ローン・ジョイントベンチャーへの IFRS 第 11 号の適用と管理消費者信用残高から統合消費者信用残高への自動車ローン・ジョイントベンチャーのリース・ファイナンス資産の再分類を理由に修正再表示。

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

2014 年度第 2 四半期の CIB の純利益グループ帰属分は、2 億 6,100 万ユーロに達しました。ローン・ヘッジ(収益の-1,400 万ユーロ)、DVA running の影響(収益の-2,400 万ユーロ)、及び FVA の初回適用(CVA/DVA 手法の変更を含めて収益の-1 億 5,300 万ユーロ)を修正再表示すると、基礎純利益グループ帰属分は 3 億 8,400 万ユーロとなりました。

ファイナンス事業は、修正再表示した純利益に 3 億 300 万ユーロ寄与し(2013 年度第 2 四半期は 1 億 9,100 万ユーロ)、また、資本市場及び投資銀行部門は 1 億 5,400 万ユーロ寄与しました(2013 年度第 2 四半期は 9,500 万ユーロ)。

当期の非継続事業は、2013 年度第 2 四半期の-300 万ユーロに対して-7,300 万ユーロの影響を及ぼしました。

ニューエッジの売却は、ニューエッジ・グループに対する CA-CIB の 50%の持分をソシエテ・ジェネラルに売却した 2014 年 5 月 6 日に完了しました。この取引は、2014 年度の損益計算書に重大な影響を及ぼすことはありませんでした。

CA-CIB の合計(非継続事業を含む)

(in millions of euros)	Q2-14	Q2-14*	Q2-13	Q2-13*	Change Q2*/Q2*
Revenues	928	1,119	994	1,030	+8.8%
<i>o/w Financing activities</i>	634	648	509	519	+25.1%
<i>o/w Capital markets and investment banking</i>	346	523	436	462	+13.1%
<i>o/w Discontinuing activities</i>	(52)	(52)	49	49	nm
Operating expenses	(565)	(565)	(567)	(567)	(0.4%)
Gross operating income	363	554	427	463	+20.1%
Cost of risk	(49)	(49)	(105)	(105)	(52.3%)
Operating income	314	505	322	358	+41.3%
Share of net income of equity-accounted entities	46	46	39	39	+15.8%
Net income on other assets	(1)	(1)	2	2	nm
Income before tax	359	550	363	399	+37.5%
Tax	(99)	(165)	(98)	(111)	+50.5%
Net income from discontinued or held for sale operations	8	8	(9)	0	nm
Net income	268	393	256	288	+35.6%
Non-controlling interests	7	9	5	5	+61.7%
Net income Group share	261	384	251	283	+35.0%

* ローン・ヘッジ、FVA Day1、CVA/DVA 手法の変更(2014 年度第 2 四半期)、及び DVA running を調整後。

注記:2013 年度の数字は、IFRS 第 11 号の新たな適用に従って UBAF を表示するように調整されている。

2014 年度第 2 四半期の**ファイナンス事業**の収益は、ローン・ヘッジの影響を除いて 6 億 4,800 万ユーロに達しました。この中には、「商業銀行その他」部門の取引の有利な環境下での手仕舞い分である +8,100 万ユーロが含まれています。この事業の好業績を牽引したのは、より効率的な流動性消費と組み合わされたオリジネーションの持続でした。商業銀行部門の収益は、堅調な金利マージンと手数料収入により、上記の取引の影響を含めて 3 億 4,200 万ユーロを記録しました。当期のストラクチャード・ファイナンスの収益は、資産金融を要因とした 1.3%増の 3 億 600 万ユーロとなりました。当期の流動性消費に対する年間収益率は、前四半期の 2.36%、前年同期の 2.40%に対して 2.80%という記録的水準に達しました。

クレディ・アグリコル CIB は、フランスのシンジケーション部門で競争的地位を維持しました(第 1 位)¹。この部門はまた、西ヨーロッパ圏及び EMEA 圏¹でそれぞれ第 2 位にランクされると共に、EMEA 圏での法人向けローンシンジケーションで第 3 位から第 2 位¹に上昇しました。更に、航空機ファイナンスで引き続き世界のリーダーとなっています²。最後に、クレディ・アグリコル CIB は、EMEA 圏¹での欧州のレバレッジド・ファイナンスの主幹事業で第 4 位から第 2 位に順位を上げました。

2014 年度第 2 四半期の**資本市場及び投資銀行部門**の収益は、DVA running、FVA day 1、及び CVA/DVA 手法の変更の影響を除くと、5 億 2,300 万ユーロとなりました。この数字は、1,700 万ユーロのブローカレッジ収益を含んでいる前年同期と比べると 13.1%増となります。

DVA running、FVA day 1、及び CVA/DVA 手法の変更の影響を除いた当期の債券による収益は過去の四半期を上回り、特に前年同期比 13.3%増の 4 億 4,300 万ユーロという顕著な伸びとなりました。これは、資金取引(好ましい比較ベース)と信用・金利事業の好業績により牽引されました。クレディ・アグリコル CIB は、欧州 ABCP 証券化³の主幹事業で第 1 位を維持しました。また、国際機関債券発行とユーロ建て債券発行で世界第 3 位を占めています¹。

投資銀行部門は、2014 年度第 2 四半期には良好な業績を収めました。収益は、特に M&A 部門でのいくつかの大型案件を主因として、前年同期比 12.7%増の 8,000 万ユーロとなりました。CA-CIB は、フランスの参加¹により M&A の成立案件で第 8 位から第 3 位に、また、フランスでの転換社債の主幹事業で第 6 位から第 1 位にそれぞれ上昇しました¹。

2014 年 6 月 30 日現在の最大損失予想額(VaR)は、非常に低い 400 万ユーロにとどまりました(2014 年度第 2 四半期の平均は 600 万ユーロ)。

更に、**法人営業及び投資銀行部門**の当期の収益には、資金調達評価調整(FVA。無担保デリバティブの価値評価において資金調達費用を考慮するためのもの)の初回適用に伴う-1 億 6,700 万ユーロの影響が含まれています。この中には、流通市場で購入した欧州の住宅ローン・ポートフォリオ(非継続事業で計上)の-6,200 万ユーロの減損費用や、「商業銀行その他」部門の取引の有利な環境下での手仕舞い分である+8,100 万ユーロが含まれています。

法人営業及び投資銀行部門の 2014 年度第 2 四半期の営業費用は、前年同期比 0.4%減となりました

¹ 出典:トムソン・ファイナンシャル。

² 出典:Air Finance Database。

³ 出典:CP ウェア。

た¹。

2014 年度第 2 四半期には、4,900 万ユーロの費用純額がリスク関連費用として計上されました(前年同期は 1 億 500 万ユーロ)。

2014 年度第 2 四半期の持分法適用会社からの利益シェアは、主にアル・バンク・サウジ・アル・フランジ(BSF)の寄与分を含めて 4,600 万ユーロとなりました。

最後に、**法人営業及び投資銀行部門**の 2014 年度第 2 四半期の純利益グループ帰属分は 2 億 6,100 万ユーロに達しました。

¹ 2013 年度第 2 四半期には、ブローカレッジ事業(CLSA ニューヨーク及び東京)の費用である 2,100 万ユーロが含まれる一方で、これら子会社は、2013 年度第 3 四半期現在の IFRS 第 5 号に従って再分類されました。

6. コーポレート・センター

(in millions of euros)	Q2-14	Change Q2/Q2	H1-14	Change H1/H1
Revenues	(573)	+52.3%	(1,136)	(9.4%)
Operating expenses	(227)	+5.1%	(439)	+1.7%
Gross operating income	(800)	+35.1%	(1,575)	(6.6%)
Cost of risk	13	x8.3	94	+41.7%
Operating income	(787)	+33.3%	(1,481)	(8.6%)
Share of net income of equity-accounted entities	(2)	(94.3%)	33	nm
Net income on other assets	-	(77.8%)	5	nm
Income before tax	(789)	+28.1%	(1,443)	(14.6%)
Tax	325	+67.2%	583	(0.3%)
Net income	(464)	+10.0%	(860)	(22.2%)
Non-controlling interests	23	(29.0%)	56	(32.4%)
Net income Group share	(487)	+7.2%	(916)	(22.9%)

2014 年度第 2 四半期の収益は、2013 年度第 2 四半期の-3 億 7,600 万ユーロに対して-5 億 7,300 万ユーロとなりました。収益には、-1 億 8,600 万ユーロ（株主貸付の金利と劣後債「T3CJ」を含めて 2013 年度第 2 四半期は-1 億 1,200 万ユーロ）に対する Switch 保証のパート 1 及び 2 のコスト、積極的なポートフォリオ運用と ALM ポジションの手仕舞いによるプラス影響、及びユーラゼオ社の株式転換可能債券の公正価額の変動分である 2,300 万ユーロ（2014 年度第 1 四半期は-4,100 万ユーロ）が含まれています。クレディ・アグリコル CIB の発行体スプレッドとユニット・リンク型保険契約に関連するスプレッドは、前年同期の 6,800 万ユーロのプラス影響に対して、当期は-2 億 3,900 万ユーロの影響を及ぼしました。

当期の営業費用は、現行の規制に伴う作業（AQR、ストレステスト）を主な理由とする追加の当社費用を主因として前年同期比で 5.1%増加しました。

2014 年度第 2 四半期のリスク関連費用は、エクスポージャーにかかわる 3,000 万ユーロの戻入れから恩恵を受けました。

したがって、2014 年度第 2 四半期の純利益グループ帰属分は-4 億 8,700 万ユーロとなりました（発行体スプレッドの影響を除くと-3 億 3,200 万ユーロ）。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2014 年 6 月 30 日現在の当グループの顧客ローン残高は、総額で 7,030 億ユーロとなりました。地域銀行、LCL、及び国際リテール・バンキングの子会社は、オン・バランスシート預金が 2013 年 6 月 30 日現在で前年比 2.3%増の 4,790 億ユーロを記録しました。資金調達に関しては、オン・バランスシートの顧客預かり資産が 6,100 億ユーロに達しました。

<i>(in millions of euros)</i>	Q2-14	Change Q2/Q2	H1-14	Change H1/H1
Revenues	7,593	(3.5%)	15,346	+0.9%
Operating expenses	(4,812)	+1.1%	(9,503)	+0.4%
Gross operating income	2,781	(10.4%)	5,843	+1.8%
Cost of risk	(740)	(23.1%)	(1,647)	(22.0%)
Operating income	2,041	(4.8%)	4,196	+15.7%
Share of net income of equity-accounted entities	(624)	nm	(527)	nm
Net income on other assets	3	+29.8%	3	(83.5%)
Change in value of goodwill	-	nm	(1)	nm
Income before tax	1,420	(34.2%)	3,671	(1.0%)
Tax	(637)	(9.2%)	(1,383)	+18.6%
Net income from discontinued or held for sale operations	(2)	nm	5	nm
Net income	781	(46.9%)	2,293	(10.9%)
Net income Group share	705	(49.1%)	2,125	(11.8%)

2014 年度第 2 四半期のクレディ・アグリコル・グループの**収益**は、2013 年度第 2 四半期比 3.5%減の 75 億 9,300 万ユーロとなりました。事業活動とは無関係の要因(発行体スプレッド、DVA、ローン・ヘッジ、FVA day 1、及び CVA/DVA 手法の変更)による修正再表示により、収益は 2.4%増加しました。この改善は主に、法人営業及び投資銀行部門の良好な実績と合わせて、中核事業(すなわち、リテール・バンキング及び資産管理)の堅調な推移を反映しています。

2014 年度第 2 四半期の**営業費用**は、前年同期比で 1.1%増となりました。

2014 年度第 2 四半期の**リスク関連費用**は、前年同期の残高の 45 ペーシス・ポイントに対して 37 ペーシス・ポイントとなり、前年同期比で 23.1%減となりました。この減少は特に、フランスのリテール・バンキング部門と専門金融サービス部門で顕著でした。

持分法適用会社の利益シェアは、BES の実績に占める当グループのシェアである-7 億 800 万ユーロを含めて、2014 年度第 2 四半期には-6 億 2,400 万ユーロとなりました。

全体では、**純利益グループ帰属分**は、前年同期の 13 億 8,500 万ユーロに対して 7 億 500 万ユーロでした。BES、発行体スプレッド、DVA、ローン・ヘッジ、FVA day 1、及び CVA/DVA 手法の変更の影響を除くと、基礎純利益グループ帰属分は、前年同期の 13 億 7,300 万ユーロに対して 16 億 9,400 万ユーロとなりました。この増加分は主に、BES を除いた国際リテール・バンキング部門と法人営業及び

投資銀行部門の業績改善によるものでした。

Crédit Agricole S.A.'s financial information for the second quarter of 2014 consists of this press release and the attached presentation. All regulated information, including the registration document, is available on the website www.creditagricole.com/Finance-and-Shareholders under "Financial reporting" and is published by Crédit Agricole S.A. pursuant to the provisions of article L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 *et seq.* of the AMF General Regulation

Press Relations		Investors Relations	+33 (0) 1 43 23 04 31
Anne-Sophie Gentil	+33 (0)1 43 23 37 51	Denis Kleiber	+33 (0)1 43 23 26 78
Charlotte de Chavagnac	+33 (0)1 57 72 11 17	Nathalie Auzenat	+33 (0)1 57 72 37 81
Alexandre Barat	+33 (01) 43 23 07 31	Sébastien Chavane	+33 (0)1 57 72 23 46
Louise Tingström	+44 7899 066995	Fabienne Heures	+33 (0)1 43 23 06 38
		Aleth Degrand	+33 (0)1 43 23 23 81
		Marie-Agnès Huguenin	+33 (0)1 43 23 15 99
		Laurence Gascon	+33 (0)1 57 72 38 63
		Aurélien Marboeuf	+33 (0)1 57 72 38 05

Disclaimer

The figures presented for the six-month period ending 30 June 2014 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date. They have been prepared in accordance with IAS 34 "Interim Financial Reporting".

The condensed interim financial statements of Crédit Agricole S.A. have been reviewed by the statutory auditors and their report will be issued shortly.

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, § 10). This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections. Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market values and asset depreciations.

Readers must take all of these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.